

【三陰三陽の考え方 1】

さて、いつもお話させていただいてますが、漢方治療は西洋医学的な「病名」に対応して薬方が決まってくるのではなく、病気の経過、つまり「病期」に対応する薬方を考えます。ですから、患者さんと向き合ったとき、その方の病名が何であるかも大切ですが、まずどの病期にあるかを考えるわけです。病期は、患者さんの治癒反応のあらわれかたによって分類されます。これが三陰三陽の考え方です。六つの病期に分類しますので、六部（りくぶ）の考え方ともいわれます。

三陰：太陰（たいいん）、少陰（しょういん）、厥陰（けっちん）

三陽：太陽（たいよう）、陽明（ようめい）、少陽（しょうよう）